

ガジュマルの樹の下で

沖縄県立那覇高等学校 二年

呉屋 鳳輝

大きく枝を広げたガジュマルの樹の下で
ごろんと寝そべって目を閉じる
ふうーっと息を吐き
すうーっと息を吸う
草の匂いが身体の一部となつてとけていく
静かなざわめきを起こす枝々の葉は
幾重にも重なり
風に揺れる木漏れ日が
僕の上にふり注ぐ
まぶたに映る真つ赤な血潮は
僕が今生きていることの証だ
かすかに薫る潮風が
穏やかな潮騒の声を運んでくる
大空を飛びまわる鳥たちは
悠々と翼を広げて駆けめぐり
ゆるやかに流れる時間は
地上に生きるすべての生命を息づかせる
風が変わる
遠くで雨が降っている
青空を覆う雨雲は
やがて僕の上にもくるだろう
雨に潤う大地の匂いを感じながら
僕は静かに目を開ける
見上げる大きなガジュマルの樹
そのゴツゴツとした年老いた幹に
あの日の悲しみや苦しみを閉じ込め
黙って僕を包んでいる
何もかも失い
人間の生命さえ奪った悲惨な戦争を
二度と起こさないように
自然の中で脈打つ生命の尊さを
ガジュマルの老木は語りかける
降り出した雨に追われて
駆け込むあの子の
小さな肩を漏らさぬように

ガジュマルの樹は
大きく大きく手を広げ
強く優しく包み込む
雨が上がる
きらりと輝く空に枝を伸ばし
天と地の恵みを吸い上げて生きる
ガジュマルの樹
人々の悲しみも喜びも見つめながら
この場所で激しい戦火をくぐり抜け
一生懸命に生きてきた
生命の息づく場所に
着飾った言葉なんていらぬ
生命の声の聞こえる場所に
醜い争いなんて起こらない
力強くみなぎるその生命の声を
限りなく生きるその生命の声を
今も誰かが聴くだろう
ガジュマルの樹の下で